

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K20566

研究課題名（和文）子どもの外遊び空間の創出に資するアウトドア・レジャーの拠点形成に関する研究

研究課題名（英文）Study on outdoor leisure contributing to create the opportunities playing outside for the young

研究代表者

磯野 巧（Isono, Takumi）

筑波大学・生命環境系・客員研究員

研究者番号：50754884

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間を通して、雑誌論文（うち査読あり7）、学会発表4件、国際学会1件、図書1件をアウトプットすることができた。具体的には開拓型キャンプ場、ジオパーク、アストロツーリズム、グランピング、大規模農産物直売所、インバウンド、夜間観光、訪日教育旅行などをキーワードとする研究である。とくに訪日教育旅行では安心安全に農山村に住む大人とともに外遊びを楽しめる環境、夜間観光ではイブニングタイムエコノミーという夕食時間帯の利活用、開拓型キャンプ場では大人と共にアウトドア・レジャーを楽しむ空間の創出が、それぞれ子どもの外遊び空間の形成に重要な役割を果たすことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の主目的はアウトドア・レジャーの拠点形成に関わる諸アクターの活動実態や連関構造を分析し、子どもの外遊び空間の創出に関わる地域的条件を解明することであった。訪日教育旅行の農村生活体験や夜間に安心安全に星空鑑賞やまちあるきを楽しめるツアーコンテンツをはじめ、プログラム化されたアウトドア・レジャーが子どもを含むファミリー層を魅了し、それが地域経済の活性化に貢献していることが明らかとなった。このことは、国内外で事例研究が希薄なナイトタイムエコノミーや多様化したインバウンド需要に関わる研究分野に一石を投じるものと思われる。

研究成果の概要（英文）：Throughout the research period, the author released the articles (seven with peer review), four conference presentations, one international conference, and a book. The themes are campground, geopark, astronomical tourism, gramping, large farmer's market, inbound tourism, night-time economy, international educational tour and so on.

研究分野：観光学

キーワード：外遊び アウトドア・レジャー 星空観光 インバウンド 訪日教育旅行 観光行動 温泉

1. 研究開始当初の背景

近年では外遊びにおける安全志向が重視されており、プログラム化されたアウトドア・レジャーが注目を集めている。アウトドア・レジャーは観光産業として取り組まれることが多く、子どもの外遊び空間の創出が地域に経済的・社会的効果をもたらすと言われている。ゆえにアウトドア・レジャーの展開に関わる地域の空間構造や社会関係を分析することは、子どもの外遊び空間が減少し、また観光・レジャー産業を起爆剤とした地域創生が求められる今日において極めて有用と判断できる。

2. 研究の目的

本研究では、アウトドア・レジャーの拠点形成に関わる諸アクターの活動実態や連関構造を分析し、子どもの外遊び空間の創出に関わる地域的条件を解明する。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、アウトドア・レジャーの拠点形成に関わる諸アクターの活動の係性に着目した現地調査を行う。まず、過疎化の実態を説明する基礎資料を入手する。つぎに、アウトドア・レジャーに関わる施設、組織、民間企業などを抽出し、それぞれの概要、アクティビティの種類、参加状況など活動実態を把握する。とくに子どもの参加状況やその動態については詳細に聞き取り調査を実施する。さらに、行政や観光協会にて観光政策や観光まちづくりに関する聞き取り調査を行い、それらとアウトドア・レジャーとの関わりについて検討する。これらを通して、アウトドア・レジャーに関わる諸アクターの連関構造を検討する。

4. 研究成果

雑誌論文 15 件、学会発表 4 件、図書 1 件を成果として出すことができた。代表的なものは、ファミリー層を対象としたインバウンド向けナイトツアーに関する研究、農林漁業体験民宿を活用した訪日教育旅行に関する研究、アストロツーリズムの環境整備に関する研究、自然体験の場を提供する市民活動に関する研究、キャンプ空間におけるサービス提供と受容に関する研究、大規模農産物直売所の利用形態に関する研究、日帰り温泉施設の観光利用特性に関する研究などである。それぞれの概要を以下に記す。

渋谷で展開するインバウンド向けナイトツアーの特徴を明らかにした。渋谷では街歩きを基軸とするインバウンド向けナイトツアーが観光協会主導により企画運営されていた。こうしたオフィシャルな取り組みは外国人旅行者が安全安心に夜の街歩きを楽しむ機会を創出していた。また、必ずしも飲酒を伴うわけではないため、ファミリー層が気兼ねなく参加できる夜間コンテンツとなっている。さらに、インバウンド向けナイトツアーはナイトタイムエコノミー振興を図るうえで空白時間となりがちなイブニングタイムのコンテンツを充実させる点で効果的であった。

三重県大紀町が取り組む農林漁業体験民宿を事例として、それが訪日教育旅行の受容基盤としていかなる位置付けにあるのかを明らかにした。三重県における訪日教育旅行は予めから関係性の深い台湾からのものが中心であり、それは学校交流を重視する傾向にあった。三重県には学校交流を実施できる学校が一定数存在するため、学校交流に対する多様なニーズに柔軟に対応することが可能となっている。台湾からの訪日教育旅行はホームステイが不可欠な要素となっているが、この点については大紀町が大きな役割を担っていた。その背景には農林漁業体験民宿が多数立地していること、一次産業に関わる多種多様な体験プログラムが備わっていること、組織としての受け入れ態勢が整備されていること、外国人の団体の受け入れ実績が豊富であることなど、台湾からの訪日教育旅行の受け入れに関わる優位性の存在が認められる。また、比較的タイトなスケジュールを組む台湾の訪日教育旅行において、都市部からの近接性に優れた大紀町は農山漁村でのホームステイを実施するうえで理にかなった地域であった。

三重県熊野市を事例として、当該地域の観光目的地としての性格を踏まえつつ、夜間観光コンテンツの拡充に向けた諸主体による取り組みや観光客の訪問意識や観光行動の分析に基づき、星空鑑賞アクティビティの潜在的な需要と課題を整理・導出し、アストロツーリズムの発展に向けた一方策を提示することを目的とする。熊野市の観光資源は大半が昼の時間帯に集中するため、アストロツーリズムをはじめとする夜の観光資源の充実、新たな観光消費機会を創出するものとして期待されている。熊野市は星空観光の側面では後発的地域であるため、他地域との差別化を図る必要がある。アストロツーリズムでは、大半の場合は専門家による星座の説明といった教育旅行の要素が強くなりがちであるが、熊野市の場合は星空に関連した「癒し」や「レクリエーション」的な要素が強くと望まれている。こうした「ライト」な星空鑑賞機会の創出は、ファミリー層が安心して夜間アクティビティを楽しむ機会を提供することにもつながる。その際、星空そのものは主たる観光アトラクションとなる可能性が低いいため、熊野市の強みである自然観光資源や世界遺産との関連性ある星空鑑賞アクティビティを創出する必要がある。

首都圏近郊に立地する県立座間谷戸山公園を事例として、子どもに対する自然体験の場がどのように提供されているのかを明らかにした。県立座間谷戸山公園では、子どもに対する自然

体験は長く地元で生活してきた市民団体によって、単なる自然体験にとどまらず地形条件や植生の特性を活かした歴史文化を交えるかたちで提供されていた。また遠足をはじめとする学校単位での自然体験の機会創出も試みられており、とりわけ座間市の子どもにとって身近な自然環境と体験し学習することのできる場所として都市公園が活用されていた。

三重県津市美杉町に立地する「ウッズランド Mio」の継続的發展に向けた条件を探り、それが美杉町の地域創生に果たしうる役割を検討した。ウッズランド Mio は大都市に近接しながらも自然豊かで静寂な環境が保たれたキャンプ場であり、その環境の維持管理や森林資源を活かした独自の体験コンテンツの創出ないし更新はリピーター確保において重要であった。ウッズランド Mio はそれ自体が特殊性や訴求力の高い観光資源としての性格をもち、そこを拠点とする美杉町観光のゲートウェイとして機能していた。こうした美杉町の魅力を「発見」することができる当該施設の強みは、ツーリズムによる地域創生を図るうえで有用と示唆された。

三重県津市に立地する大規模農産物直売所「高野尾花街道『朝津味』(以下、朝津味)」を事例として、その利用実態にみられる諸特徴を明らかにした。朝津味は高野尾地区における「農」を基盤とした地域活性化事業の一環として整備された県下最大規模の農産物直売所である。三重県および近隣府県に居住する朝津味訪問経験者にウェブアンケート調査を実施した結果、その半数以上がリピーターであった。彼らは身近に利用できる農産物直売所として「新鮮な農産物を購入することができる朝津味」を高く評価していると思われる。一方で、回答者の多くは農産物直売所における「観光交流拠点」としての役割に期待をしているものの、実際に朝津味で開催されるイベントは彼らの主たる訪問目的となっていなかった。朝津味は単一的かつ主たる目的地としての性格が強いため、新鮮な農産物の購入を目的とした観光客に対して、副次的なアトラクションとしてツーリズムに関わるイベントを企画したりその情報を発信したりすることが有効と考えられる。その際、観光資源としての農産物直売所の代替性を鑑みると、朝津味ならではの個性を強調することも重要となる。

三重県紀北町に立地するきいながしま古里温泉の観光利用にみられる現状と課題を検討した。きいながしま古里温泉は決して良好とは言えない立地条件下にも関わらず、関西や東海地方を中心に広域的な集客圏を形成していた。その基盤には温泉資源の「質」があり、それが強固な魅力となって遠方からの訪問意欲を喚起していた。ウェブアンケート調査を実施した結果、ほとんどの回答者が温泉資源に高評価を示していた。一方で、回答者の居住地によって来訪動機や観光行動に若干の差異がみられた。三重県民は周遊観光の一環で紀北町に赴き、きいながしま古里温泉のほかにも自家用車で立ち寄りやすい観光資源を訪れる傾向にあった。それゆえ当該施設への訪問が主たる旅行目的でないものも少なからず存在し、偶発的な立ち寄りも散見された。これに対して、三重県民以外、すなわち遠方に居住する回答者は明確な訪問意思をもつ傾向がみられ、当該施設を単一目的地とするものも確認された。そのため、三重県民と比較して行動範囲も比較的狭小であることが窺える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 38
2. 論文標題 三重県紀北町古里地区における日帰り温泉施設の観光利用特性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 温泉地域研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Isono, T. and Itoh, N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Potential for the Development of Astronomical Tourism in Kumano City, Mie Prefecture, Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hidden Geographies	6. 最初と最後の頁 171-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-030-74590-5_8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧・小林弘汰・濱口友希・織田 拓	4. 巻 32(2)
2. 論文標題 磯野 巧・小林弘汰・濱口友希・織田 拓（2021）：三重県津市美杉町における開拓型キャンプ場の地域的役割 ウズランドMioの事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 65(5)
2. 論文標題 グランピングによる観光コンテンツの特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊『地理』	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田真利子・飯塚 遼・磯野 巧・卯田卓矢・太田 慧・杉本興運・金 延景・中川紗智・福井一喜	4. 巻 32(1)
2. 論文標題 ナイトライフ観光とナイトタイムエコノミーに関する研究 成果報告 2年間の研究分科会活動と成果報告,そして今後に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 91-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本優紀・池田真利子・磯野 巧・卯田卓矢・柿沼由樹	4. 巻 65(10)
2. 論文標題 自然のなかの光と音の観光	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊『地理』	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 72
2. 論文標題 三重県津市における大規模農産物直売所の利用特性 高野尾花街道『朝津味』の事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三重大学教育学部研究紀要 (人文科学)	6. 最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 1
2. 論文標題 三重県熊野市における世界遺産ツーリズムの可能性 アフターコロナを見据えたインバウンドの在り方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2020年度三重大学戦略的機能強化プロジェクト「紀伊半島創生のためのOnlineによる新たな研究・教育実践体制の構築」報告書	6. 最初と最後の頁 42-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 東京都渋谷区におけるインバウンド向けナイトツアーの展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18979/jitr.31.1_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 79(6)
2. 論文標題 三重県大紀町における訪日教育旅行の受容基盤 - 農林漁業体験民宿に着目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 卯田卓矢・磯野 巧	4. 巻 12(3)
2. 論文標題 観光資源としての星空の構築 - 沖縄県石垣島における星空ツーリズムの発展を通して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 277-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24586/jags.12.3_277	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田真利子・飯塚 遼・磯野 巧・卯田卓矢・太田 慧・杉本興運・金 延景・中川紗智	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 ナイトライフ観光とナイトタイムエコノミーに関する研究 経過報告ー2018年度活動報告ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 147-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井絵理・磯野 巧	4. 巻 71
2. 論文標題 愛知県稲沢市における国府宮はだか祭りの存続形態	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三重大学教育学部研究紀要（人文科学）	6. 最初と最後の頁 87-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧・宮岡邦任・小西弘純・近藤祐介・清水将彦・藤井絵理	4. 巻 71
2. 論文標題 学部学生による「地理学野外実習」を介した地域性の発見プロセス－三重県名張市の事例－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三重大学教育学部研究紀要（人文科学）	6. 最初と最後の頁 107-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大山沙代美・澤田俊明・柳瀬武志・片桐悠・磯野巧・森田椋也・峪口有香子
2. 発表標題 コロナ禍での上勝町での棚田保全活用活動の展開
3. 学会等名 棚田学会発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Isono, T. and Itoh, N.
2. 発表標題 Potential for the Development of Astronomical Tourism in a Peripheral Region in Japan: A Case Study of Kumano City, Mie Prefecture
3. 学会等名 EUROGEO 2019 Conference (Hidden Geographies International Conference) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯野 巧
2. 発表標題 日本におけるジオパーク・ジオツーリズムの研究動向と観光地理学的研究の可能性
3. 学会等名 日本地理学会2019年秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 卯田卓矢・磯野 巧
2. 発表標題 沖縄のエコツーリズムにおける「夜」-石垣島のアストロツーリズムに着目して-
3. 学会等名 第12回地理空間学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 杉本興運・磯野 巧	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 若者と地域観光-大都市のオルタナティブな観光的魅力を探る	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------